

新潟県立長岡聾学校

QRコードも利用できます！

きこえ通信



<https://nagaokarou.nein.ed.jp/>

通信は地域支援のページ

新潟県立長岡聾学校 通級指導教室

〒940-0093 長岡市水道町2-1-13

Tel 0258-38-0210 (通級指導教室)

*18:00頃までをお願いいたします。メールもご利用ください。

FAX 0258-39-5665

e-mail school@nagaokarou.nein.ed.jp

令和7年度 第11号 発行：令和8年3月



1年間ありがとうございました！

数年前より、「難聴についてより多くの方に知ってほしい」という思いから、「きこえ通信」として配付させていた
だいています。お読みいただきありがとうございます。「いつも読んでいますよ」「知らなかったことを知ることがで
きてよかったです」などと声をかけていただくこともあり、うれしく思いました。そのためか、今年度も小中高とも相
談数が以前より増えました。きこえにくさのある児童生徒でまだ支援につながっていないケースを少しでも減らせる
よう、困り感が減らせるよう、これからもよろしく願っています。



話かわって、通級の時間が終わり廊下へ出て玄関へ向かうと、見事な夕陽が出迎えてくれます。担当者は「夕
陽の名所」と名付けています。冬は通級が終わると真っ暗ですが、春に向かい、少しずつ空が明るくなってきます。

この時期、卒業学年の児童生徒は次への進路が迫ってくる頃です。新しい環境へ期待と不安が混じり合っ
ていることと思います。明るい夕陽の光は、そんな子どもたちへのエールのように感じます。

児童生徒の皆さん、皆さんの未来は太陽のようにきらきらと輝いています。力強く進んでください。このたよりを
読んでいる皆さんも、児童生徒へ励ましを届けてほしいと思います。



中3の生徒と「きこえのトリセツ」を作りました！

難聴通級は中3で終わりです。高校生になって相談に来てもいいのですが、聾学校としての
定期的なきこえのサポートは終わります。高校等へ進学すると、今までのように小さい頃からよく
知っていて、気遣ってくれる友達も大幅に減ります。そこで、今まできこえの学習をしてきたことを
もとに、「自分のきこえや周囲にお願いしたいことを自分で伝える」ことで、自分で「困り感を減ら
す環境作り」が大切になってきます。これは、その先の進学や就職等の場面でも同様です。



通級としては、毎年の中3の生徒と「きこえのトリセツ」を作成しています。まず、自分の聴力を確認し、どんな場
面でもどのように聞こえるか、困ることは何か、どうしてもらえると助かるか、アンケートに記入します。それから、三
つ折りの用紙に記入し、仕上がりはパンフレットのようになります。生徒の気持ちは個人差があり、全部自分から
伝える、聞かれたら言う、言わない、などそれぞれですが、「きこえのトリセツ」を作成しておくことで、必要な時に
話すことがしっかりできると思います。

令和6年4月から、行政機関等に加え事業者についても「合理的配慮提供の義務化」が始まりました。実
施に当たっては、自分でお願いすること、お互いに話し合うことが大切とされています。「きこえのトリセツ」作成
の経験を生かして、過ごしやすい学校や職場環境を自分で作り出してほしいと思います。

得意なこと、好きなことを大切に！

当校や当通級の役割を考えると、どうしても「困らないようにしよう」「自分から伝えることができるようになろう」というスタンスが多くなります。それは必要なことですが、忘れられない言葉があります。ちょうど、きこえのトリセツを作成していたときでした。ある生徒が「助けられてばかりはちょっと…」と言いました。そこで「そうですよね。あなたが他の人を助ける場面やあなたが得意なことがありますよね」と伝えると、その生徒はほっとしたような表情を浮かべました。*この通りの言葉ではなかったかも知れませんが…。年度初めに生徒の自己紹介を書いてもらい、掲示しておく、お互いに読み合っ、「これ、自分も同じ!」「この人も〇〇部か…」などと共通点を見つける生徒もいます。通級の指導中に好きなことや得意なことの話になることもあります。自分の好きなことや得意なことは、自分が安心したり、生き生きとしたり、将来の目標としたり、まさに生きがいとなることがあります。大切にしてほしいと思います。

知っていますか? 「ディナーテーブル症候群」

当校の職員に教えてもらいました。NPO 法人にいまーる理事長の白井千恵さんという方が書かれた会報に載っていた言葉です。意味としては、その記事内に「家族と同じ食卓に居ながら、会話には入れない、また会話の内容が分からないために孤立感・疎外感をいだいてしまう状況を指す。特に聴覚障害のある人が音声中心で進む家庭で経験しやすいとされている」と記載されています。補聴器が以前よりは聞き取りやすくなったり、日頃のコミュニケーションで大丈夫と感じていたりするため、「きこえている」と思われても、生活音や声の重なり、話す向きなどでききとりにくい場合があります。児童生徒によっては多感な年頃、気遣いと受け止めもいろいろな場合もありますが、食事場面に限らず「今はききとれているのかな」「周りの音は気にならないかな」などということをも心にとめていただければ幸いです。

3月25日に「終了式」を実施します。

これまでの学びを振り返る機会としたいと思います。過去の終了式実施後に、「同じ立場の人に会えて良かった」、「安心して話せる」などと、生徒たちは喜んでいました。今年度は、きこえ友の会、難聴のある先輩の話聞く会など、全員、または複数人で集まる機会をもちました。難聴の人は1000人のうち、2~3人くらいと言われていて、数が少なく、モデルが見つけないのが現状です。コロナ禍以降も他の人とのつながりがもちにくいからこそ、仲間との出会いや縁を大切にできればと思います。

内容は、終了証書の授与、当校校長からの言葉、感想発表、簡単なレクリエーションの予定です。欠席の場合、終了証書は3年生は自宅、1、2年生は学校へ送らせていただきます。



ありがとうございました！

この1年間、通級生徒の保護者の皆様、在籍校の先生方には大変お世話になりました。難聴は見えにくい、理解されにくいと言われていました。その分、生徒本人の困り感を聞き、気持ちに寄り添う支援が大切ではないかと考えています。

在校生在籍校の先生方、4月からどうぞよろしくお願いたします。3年生の在籍校の先生方、普段の連絡の他に進学に関わる手続きへのご協力をありがとうございました。今後、再び難聴のある生徒とのご縁がありましたら、これまでのご指導の経験を役立てていただければ幸いです。保護者の皆様、1年間お世話になりありがとうございました。何かありましたらいつでもご連絡をお願いいたします。